

子どもひまわり学習塾

学習教材

3年国語 基礎・基本定着問題



国語
1

国語辞典の使い方



1 次の文を読んで□にあてはまる言葉をえらんで、その番号を書きましよう。

国語辞典じてんに取り上げられている言葉は、

といます。この言葉をさがすときは、「□」

や「はしら」をつかいます。

2

1

1 見出し語 2 つめ

2 国語辞典で、次の言葉はどんな順に出てくるでしょう。出てくる順に番号を()に書きましよう。

(2) ふかい

(1) ひろい

(3) ふとい

3 国語辞典で、次の言葉はどちらが先に出てくるでしょう。□に言葉を書きましよう。

「いちじく」と「いちご」

「すいとう」と「すいどう」

「びょういん」と「びよういん」

いちご

すいとう

びよういん

4 見出し語(辞典に取り上げられている形)にしましよう。

かかない
かきます
かくもの
かけば
かこう

かく

ふかかろう
ふかかった
ふかくなる
ふかい谷
ふかければ

ふかい

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
2

漢字のおさらい（1）



1 次の文中の——線部を漢字で書きましよう。
（送りがながひつようなときは送りがなも書きましよう。）

① 物語のとうじよう人物

② かぞくで出かける。

③ がくしゅうの計画を立てる。

④ 電車がうごく。

⑤ りんごがみる。

⑥ ふさわしいことばをえらぶ。

⑦ いみを考える。

⑧ あたたかな心

⑨ 図かんでしらべる。

⑩ 問いに答える。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
問 い	調 べる	温 かな	意 味	言 葉	実 る	動 く	学 習	家 族	登 場

組	番 名前	かかった時間	とけた数 /10
---	------	--------	-------------

国語
3

おん くん
漢字の音と訓



1

漢字の読み方には、「音」と「訓」があります。次の読み方は、「音」と「訓」のどちらでしょう。次の読み方を「訓」を書きましよう。

星

セイ
ほし

「セイ」のように、聞いただけでは意味の分りにくいものが多い。

「ほし」のように、聞いただけで意味の分かるものが多い。

訓

音

2

次の文は漢字の二とおりの読み方のはじまりについてまとめた文です。合う言葉を左の□からえらんで()に番号を書きましよう。

漢字は、はるかおかしに(2)で生まれました。もともと文字のなかった日本は、となりの中国で使われていた漢字を使って、(3)を書き表すくふうをしました。中国語では、「山」という漢字を「サン」というような発音で読んでいたので、日本でも「サン」と読みました。これが、「音」です。また、日本では、「まわりの土地より高くなっている所」のことを「やま」といっていました。そこで同じ意味のこの漢字を「やま」とも読みました。この読み方が(5)です。

このようにして、「音」と「訓」の読み方はできました。

1 日本

2 中国

3 日本語

4 音

5 訓

3

線部の言葉は、「音」と「訓」のどちらが使われているでしょう。□の中に書きましよう。

① 主語と述語のそろった文を書く。

音

② 一分は六十秒だ。

音

③ 農家のおじさんに話をきく。

訓

④ 氷がとけて水になる。

訓

⑤ ゆうびん局までの近道を教える。

訓

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				/10

国語
4

俳句を楽しもう



1 次の文の に合う言葉を書きましよう。

俳句は、五・ ・ の十七音で作ら

れた短い詩です。ふつうは、きせつを表す言葉が入ってい

ます。これを といいます。

昔の詩や歌には、「いろは歌」のように七音と 音

を組み合わせて、調子を整えているものがたくさんあり

ます。

2 次の俳句が表しているきせつを書きましよう。

① 春の海終日ひねもすのたりのたりかな 与謝蕪村よさぶそん

きせつ() **春** ()

② 閑かさや岩いすにしみ入る蝉せみの声 松尾芭蕉まつおばしやう

きせつ() **夏** ()

③ 雪とけて村いっばいの子どもかな 小林一茶こばやしじっさ

きせつ() **春** ()

3 次の俳句の()に当てはまる言葉を書きましよう。 からえ

① () **夏山**や () 一足かずづつに海見ゆる

小林一茶こばやしじっさ

② () **古池**や () 蛙かわず飛びこむ 水の音

松尾芭蕉まつおばしやう

③ () **菜**(**な**)の花や () 月は東に 日は西に

与謝蕪村よさぶそん

春の海	夏山や
菜の花や	古池や

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
5

ふごう
こそあど言葉・符号など



1

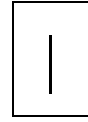
次の文に使われている符号の名前を、後ろの□からえらんで、言葉を書きましょう。

① 赤・白・黄色など。



(中点)

② 「なんておそろしい——」。



(ダツシユ)



(かぎ)

③ 母は、台どころに 立った。



(読点)



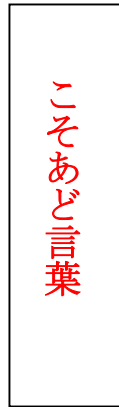
(句点)

かぎ 中点
句点 読点
ダツシユ

2

次の文の□に当てはまる言葉を左の□からえらび、書きましょう。

① 「この・その・あの」や「これ・それ・あれ」などは、何かをさししめす言葉です。このような言葉をまとめ



こそあど言葉

といいます。

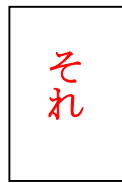
② さししめすものがはっきりしない場合は、



どれ

を使います。

③ 相手に近いものをさししめす場合は



それ

を使います。

④ 話し手に近いものをさししめす場合は



これ

を使います。

⑤ 話し手からも相手からも遠いものをさししめす場合は、



あれ

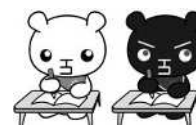
といいます。

これ・どれ・あれ・それ・こそあど言葉

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
6

漢字のおさらい (2)



1

次の文中の——線部を漢字で書きましょう。
(送りながながひつようなときは送りながも書きましょう。)

- ① かなぐをひろう。
- ② ゆうめいなかん光地に行く。
- ③ こまをまわして、あそぶ。
- ④ 西の空のようすから天気をよそうする。
- ⑤ つうがくろをまもって登校する。
- ⑥ もうひつの作品をはる。
- ⑦ 近くのぎんこうをさがす。
- ⑧ しらたまだんごを作る。
- ⑨ ふつか間の合しゆくにさんかする。
- ⑩ リサイクル品をあつめる。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
集める	二日	白玉	銀行	毛筆	通学路	様子	回して ・ 遊ぶ	有名	金具 ・ 拾う

組	番 名前	かかった時間	とけた数 /10
---	------	--------	-------------

国語
7

山小屋で三日間すごすなら・へんとつくり



ア 目的
イ 順番
ウ ノート
エ ふせん
オ やる気



考えを広げるのか、まとめるのかをはっきりとさせて、話し合い方を決めるようにしよう。

それなら エ にそれぞれが書き出して、なかま分けをして整理するといいね。



みんながしたいことや持っていきたい物をたくさん出し合って、整理するようにしよう。



ア にそって、大事な事の イ を考えながら決めよう。より多くの人が大事だと考えたものをえらぼう。



みんなでしたいことを決めて、グループでもっていく物を五つまでえらぼう。

1 山小屋で三日間すごすことになり、何を持っていくかについて、話し合っています。どのように話をすすめていくとよいかについて、次の に入る言葉をあとのアからオまでのの中から選んで書きましよう。

仕・代
銀・鉄

にんべん
かねへん

4 次の漢字のへんの名前を書きましよう。

- ① さんずい〔油・港〕 4 1
 - ② ひへん〔晴・明〕 4 1
- 4 3 2 1
日 木 糸 水


3 「さんずい・ひへん」のついた漢字はそれぞれ何にかん係があるでしょう。合うものを1から4の中からえらんで、 に書きましよう。

- 1 つくり 2 へん 3 音 4 おおまかな意味

「語」の漢字は、二つに分けた左がわに「言」という形があります。漢字の左がわにあって 4 を表す部分を 2 といいます。また、漢字の右がわにおかれる部分を 1 といいます。

2 次の文章を読んで、 に当てはまる言葉を1から4までの中からえらんで書きましよう。

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="margin: 0;">国語</p> <p style="margin: 0; font-size: 24px;">8</p> </div>	ローマ字	
---	------	---

1 に当てはまる言葉をアからキまでの中からえらんで、書きましょう。

① 日本語は、アルファベットのいくつかを使って、書き表すことができます。

このような書き表し方を オ 表記といいます。

② ア行の音は、それぞれ a i u e o の ア で表されます。

③ カ行からワ行の音は ウ いじょうが組み合わされて、(ka ki ku ke ko) のように書き表されます。

④ 「きゃ」「きゅ」「きょ」などの音は、「kya」「kyu」「kyo」のように エ で書き表します。

⑤ 「きっぷ」のようなつまる音は、「kippu」のように、次に来る音の カ の文字をかさねて書き表します。

ア 1字 イ 4字 ウ 2字 エ 3字 オ ローマ字 カ はじめ キ おわり

2 次のローマ字の読み方をひらがなで書きましょう。

① u s i うし ② t ô k y ô とうきょう

3 次の言葉をローマ字で書きましょう。

① あめ ame ② きゅうしょく kyûsyoku

③ コップ koppu

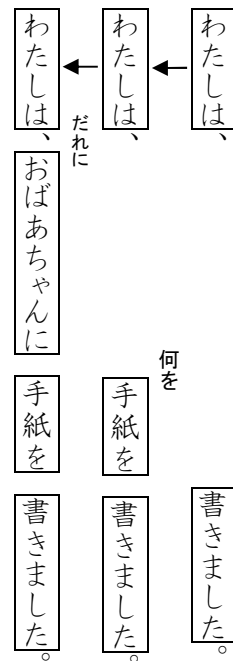
組	番	名前	かかった時間	とけた数
				/10

国語
9

しゅう しょく ご
修飾語



1 次の にあてはまる言葉を1から4までの中からえらんで書きましよう。



三つの文では、同じ **1** と **3** が使われています。そして、「何を」や「だれに」に当たる言葉をつけ足すことで、文の意味が定まり、分かりやすい文になってきます。

「だれに」や「何を」に当たる言葉を **2** といいます。

- 1 主語
- 2 修飾語 しゅうしやくご
- 3 述語 じゆつご
- 4 つなぎ言葉

2 次の文の修飾語を で囲み、係っている言葉に線を引き、↓でつなげましよう。

例 荷物は、 とても おもい。

① ひまわりが、 きれいに さいた。

② 長い 時間 すわっていた。

3 次の文に修飾語をくわえて、文をくわしくましよう。

例 ・友だちが、来た。
(友だちが、急いで 来た。)

① 花が、さいた。

例
花が、きれいに さいた。

② 見物客が、来た。

例
見物客が、たくさん 来た。

③ わたしは、読む。

例
私は、物語を 読む。

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				/ 8

国語
10

ことわざ



1

生きていくうえで教えやちえを、短い言葉や言い回しで表したものをことわざといいます。次のことわざの意味を、の「ア」から「コ」までの中からそれぞれ一つ選んで、にその記号を書き入れましょう。

- ① ちりもつもれば 山となる
- ② 犬も歩けば ぼうに当たる
- ③ 所かわれば 品かわる
- ④ ねこの手も かりたい
- ⑤ 石橋を たたいてわたる
- ⑥ わらう門には 福来る
- ⑦ わかいときの苦ろうは 買ってでもせよ
- ⑧ 善は急げ
- ⑨ さるも木から落ちる
- ⑩ おびに短し たすきに長し

コ ウ オ エ ケ ア カ キ ク イ

ア 用心の上に、用心をかさねて、物事を行うこと

イ 小さなことや、わずかなことでも、つもりつもれば大きくなること

ウ どんなに上手な人でもしっばいすることがあること

エ わかいときの苦ろうにはかちがあり、後で役に立つこと

オ よいとおもったことは、ためらわずにすぐに実行すべきだということ

カ とてもいそがしいので、だれでもいいから手伝う人がほしいこと

キ その土地によって、習かんなどがちがうということ

ク 出歩くと、思わぬ幸運(災難)にあうこと さいなん

ケ いつもにこにこことわらってくらしている人のもとにはしぜんといことがやって来ること

コ どちらに使うにしても、中途半端ちゆうはんぱで役に立たないこと

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
11

漢字の意味



1 次の□にあてはまる言葉を、左の1から3の中からえらんで、番号を書きましよう。

「はがきれいだ。」という文を読んで、どんな様子を

思いかべますか。このままでは、「葉」がきれいなのか、

「歯」がきれいなかが分かりません。

でも、1 で書くどちらかが分かります。

これは、漢字はそれだけで3 を表すからで

す。同じ2 の言葉でも、意味がちがうと、使

われる漢字がちがってきます。

- 1 漢字
- 2 発音
- 3 意味

2 絵を見て、——線部の言葉に当てはまる漢字を書きましよう。

・ひに当たる。



火

3 次の文の□にあてはまる漢字を（ ）からえらんで書きましよう。

① テン（天・点）

・テストで百□をとる。

点

・□気を調べる。

天

② カジ（家事・火事）

・□の手伝いをする。

家事

・山□の消火作業。

火事

③ カイ（回・階）

・□だんを下りる。

階

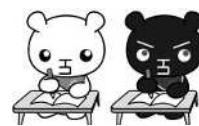
・何□もおとずれる。

回

組	番	名前	かかった時間	とけた数
---	---	----	--------	------

国語
12

コンピュータのローマ字入力



1 コンピュータのキーボードで、次のキーを打つと、画面にどんな文字が出るでしょう。
例にならって、ひらがなで書きましょう。

例 「SI」「SHI」 →

① 「T I」「C H I」 →

② 「S Y A」「S H A」 →

③ 「T Y A」「C H A」 →

2 次の「」の中の文字を入力するときは、ふつうどのキーを打ちますか。例にならって、ローマ字で書きましょう。

例 「ち」 →

① 「を」 →

② 「ん」 →

③ 「づ」 →

④ 「きって」 →

⑤ 「ひゃく」 →

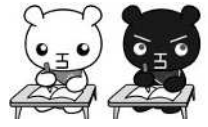
⑥ 「にっき」 →

⑦ 「しゃかい」 → (SHAKAI も可)

組	番 名前	かかった時間	とけた数 /10
---	------	--------	-------------

国語
13

漢字のおさらい (3)



1

次の文中の——線部の読み方をひらがなで書きましよう。(送りがなも書きましよう。)

例 千羽のつるを千代紙でおった。

せんば・ちよがみ

- ① 遠足で遠くに行く。
- ② 宮大工が大きな寺をたてる。
- ③ 海岸で、海の生き物をさがす。
- ④ 車の速度を速める。
- ⑤ その黒い石は、石炭だ。
- ⑥ 上等な布を等しい長さで切る。
- ⑦ 車庫に、車が二台とまっている。
- ⑧ はじめて勝負に勝った。
- ⑨ 十月二十日は、日曜日だ。
- ⑩ 汽笛を聞きながら、口笛をふく。

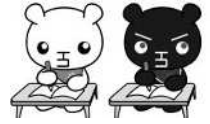
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
きてき・くちぶえ	はつか・にちようび	しょうぶ・かった	しゃこ・くるま	じょうとう・ひとしい	くろいいし・せきたん	そくど・はやめる	かいがん・うみ	みやだいく・おおきな	えんそく・とおく

組	番 名前	かかった時間	とけた数 /10
---	------	--------	-------------

国語

たしかめよう

しんだんもんだい①



1 どんなときに国語辞典を使うでしょう。三つに○をつけましょう。

- ① (○) 言葉のつかい方を調べるとき
- ② () 漢字の画数をしらべるとき
- ③ (○) 言葉の意味を調べるとき
- ④ (○) 漢字での書きあらわしを調べるとき
- ⑤ () 漢字のでき方を調べるとき

2 次の——線部の言葉を、国語辞典の見出し語の形に書きなおしましょう。

① 朝ごはんをしっかりと食べた。

() **食べる** ()

② しいんとだまって、目をとじました。

() **とじる** ()

③ お兄さんと遊んで、とても楽しかった。

() **楽しい** ()

3 次の漢字の音と訓を書きましよう。

④ 外

(音 **がい**) (訓 **そと**)

① 山

(音 **さん**) (訓 **やま**)

② 火

(音 **か**) (訓 **ひ**)

③ 朝

(音 **ちよう**) (訓 **あさ**)

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語

たしかめよう

しんだんもんだい②



① 次の俳句が表しているきせつを書きましよう。

① 閑かさや 岩にしみ入る 蝉せみの声
松尾芭蕉まつおばしやう

きせつ (夏)

② 夏山や 一足(ず)づつに 海見ゆる

小林一茶こばやしいつさ

きせつ (夏)

③ 雪とけて 村いっぱいの 子どもかな

小林一茶こばやしいつさ

きせつ (春)

④ 古池や 蛙かわず飛びこむ 水の音
松尾芭蕉まつおばしやう

きせつ (春)

⑤ 菜の花や 月は東に 日は西に
与謝蕪村よさぶそん

きせつ (春)

② 次の文の [] に当てはまる言葉を左の [] からえらび、書きましよう。

① 「この・その・あの」や「これ・それ・あれ」などは、何かをさししめす言葉です。このよう
な言葉をまとめて **こそあど言葉** といいます。

② せり・なずな・すずしろなど、言葉を並べる場合に **中点** をつかいます。

③ 「母は、出かけている。」のように **句点** は、文の終わりに、**読点** は、文の中の切れ目にうち、文を読みやすくしています。

④ **横書き** は、左から右に書きます。読点

として、多くの場合は、コンマ(,)を使い、また「二つ」や「三日目」などをのぞき、算用数字を使います。

⑤ せつめいをおぎなう場合や、言い切りにせず、とちゅうで止める場合には **ダツシユ** を使います。

横書き・こそあど言葉・中点
句点・ダツシユ・読点

組	番	名前	かかった時間	とけた数 /11
---	---	----	--------	-------------



しんだんもんだい③



① 次の漢字のへんの名前を書きましょう。

① 住・係

にんべん

② 語・話

ごんべん

③ 油・港

さんずい

② 次の漢字のつくりの名前を書きましょう。

顔・頭

おおがし

③

二学期の思い出についての出し物をすることになりました。グループで、どの思い出にしたいか、どのような出し物にしたいかを出し合い、整理します。考えを広げる話し合いで、気をつけることを二つ書きましょう。

- たがいの考えをみとめ合うこと。
- 全員で意見を出し合うこと。
- 出された考えを、なま分けして整理すること

など



④ 次のローマ字をひらがなで書きましょう。

① syakai

しゃかい

② shippo

しっぽ

⑤ 次の言葉をローマ字で書きましょう。

① かっぱ

kappa

② きんぎょ

kingyo

組	番 名前	かかった時間	とけた数 /10
---	------	--------	-------------

国語

たしかめよう

しんだんもんだい④



① 次のことわざの□に当てはまる言葉を1から3までの中からえらんで番号を書きましよう。

石橋を

□ 2 わたる

- 1 いそいで 2 たたいて 3 みがいて

② 次の文の□に当てはまる漢字を()からえらんで○でかこみましょう。

① テン

・テストで百□をとる。

(天 点)

□ 気を調べる。

(天 点)

② ハ

・秋になり、木の□が色づく。

(葉 歯)

□ のちりょうに行く。

(葉 歯)

③ カイテン

・新しい店が□した。

(回転 開店)

・こまが□している。

(回転 開店)

③ 次の文に修飾語しゅうじょごをくわえて、文をくわしくしましよう。

例

・友だちが、来た。
(友だちが、急いで 来た。)

① 手紙を書いた。

例 長い手紙を書いた。

② ひまわりが、さいた。

例 大きなひまわりが、さいた。

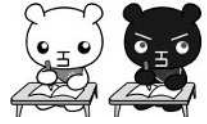
③ 弟が、食べる。

例 弟が、たくさん食べる。

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10



しんだんもんだい⑤



⑤	④	③	②	①
そくど・はやめる	そうしゃ・はしる	ひつじ・ようもう	だいく・おおきな	とおく・えんそく

- ⑤ 自転車の速度を速める。
- ④ 第一走者が走る。
- ③ 羊から羊毛をとる。
- ② 大工が大きな家をたてる。
- ① 遠くの公園に遠足に行く。

例 千羽のつるを千代紙でおった。
せんば・ちよがみ

1 次の文中の——線部の読み方をひらがなで書きましよう。(送りがなも書きましよう。)

3 次の「 」の中の文字を入力するときは、ふつうどのキーを打ちますか。例にならって、ローマ字で書きましよう。

例 「ち」 →

- ① 「ほん」 →
- ② 「を」 →
- ③ 「ろっぴゃく」 →
- ④ 「きしゃ」 →

ア 急がば回れ
ウ ねこにこばん
エ 馬の耳にねんぶつ
イ 石の上にも三年

よい考えでも、いざ実行しようとするとおずかしいことのため

2 次の説明に合うことわざを選び、記号を□に書きましよう。

組	番 名前	かかった時間	とけた数
			／10